



ispace

証券コード：9348

日本発・日本初

民間月面探査

ミッションのご紹介



代表取締役CEO & Founder

袴田 武史（はかまだ たけし）

- 子供の頃に観たスターウォーズに魅了され、宇宙開発を志す
- 米・ジョージア工科大学で修士号（航空宇宙工学）を取得。大学院時代は次世代航空宇宙システムの概念設計に携わる
- 外資系経営コンサルティングファーム勤務を経て2010年より史上初の民間月面探査レース「Google Lunar XPRIZE」に参加する日本チーム「HAKUTO」を率いた
- 同時に、運営母体の組織を株式会社ispaceに変更する。現在は史上初の民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」を主導しながら月面輸送を主とした民間宇宙ビジネスを推進中
- 宇宙資源を利用可能にすることで、人類が宇宙に生活圏を築き、地球と月の間に持続可能なエコシステムの構築を目指し挑戦を続けている

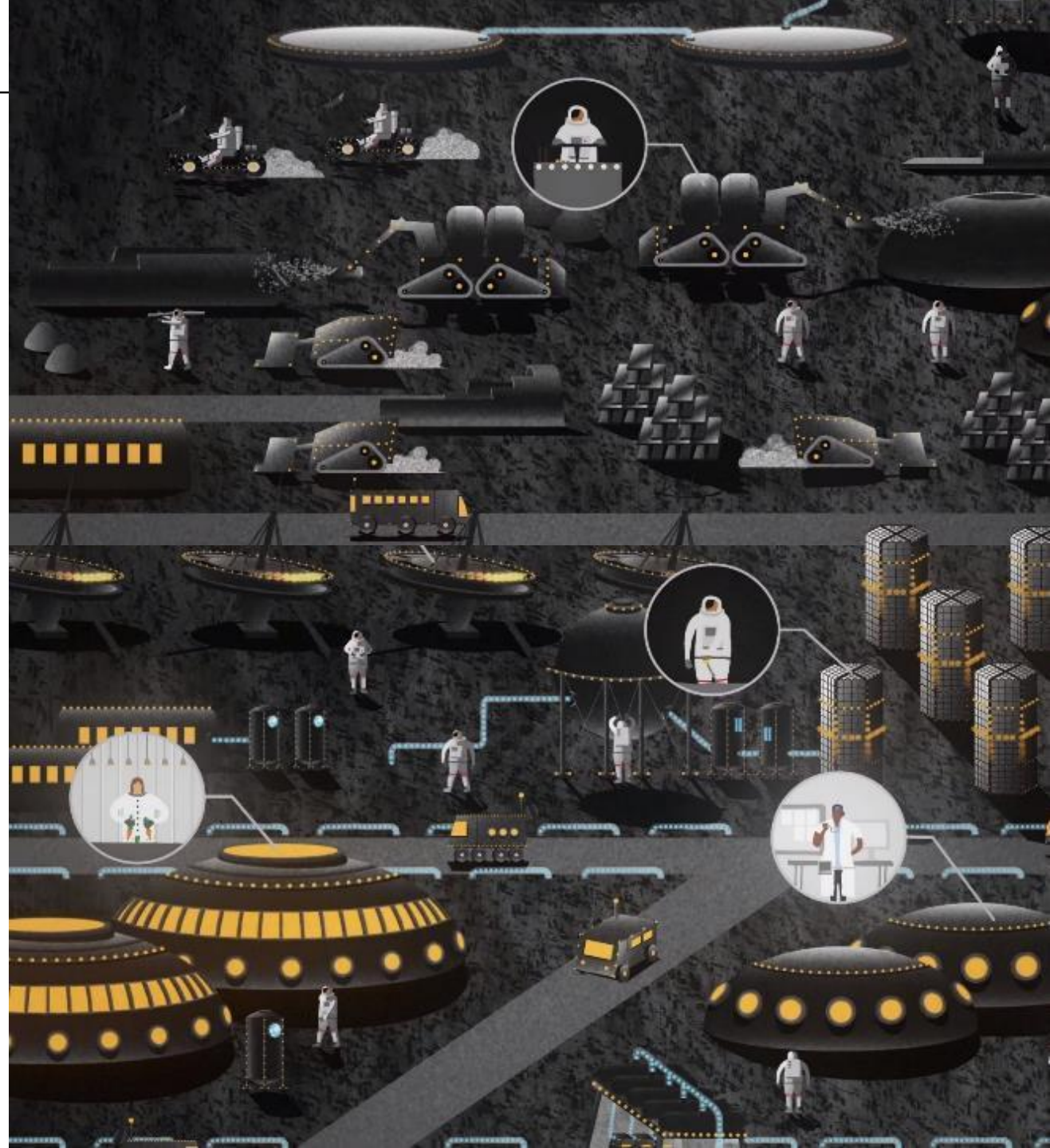
Why the Moon? – OUR VISION

EXPAND OUR PLANET. EXPAND OUR FUTURE.

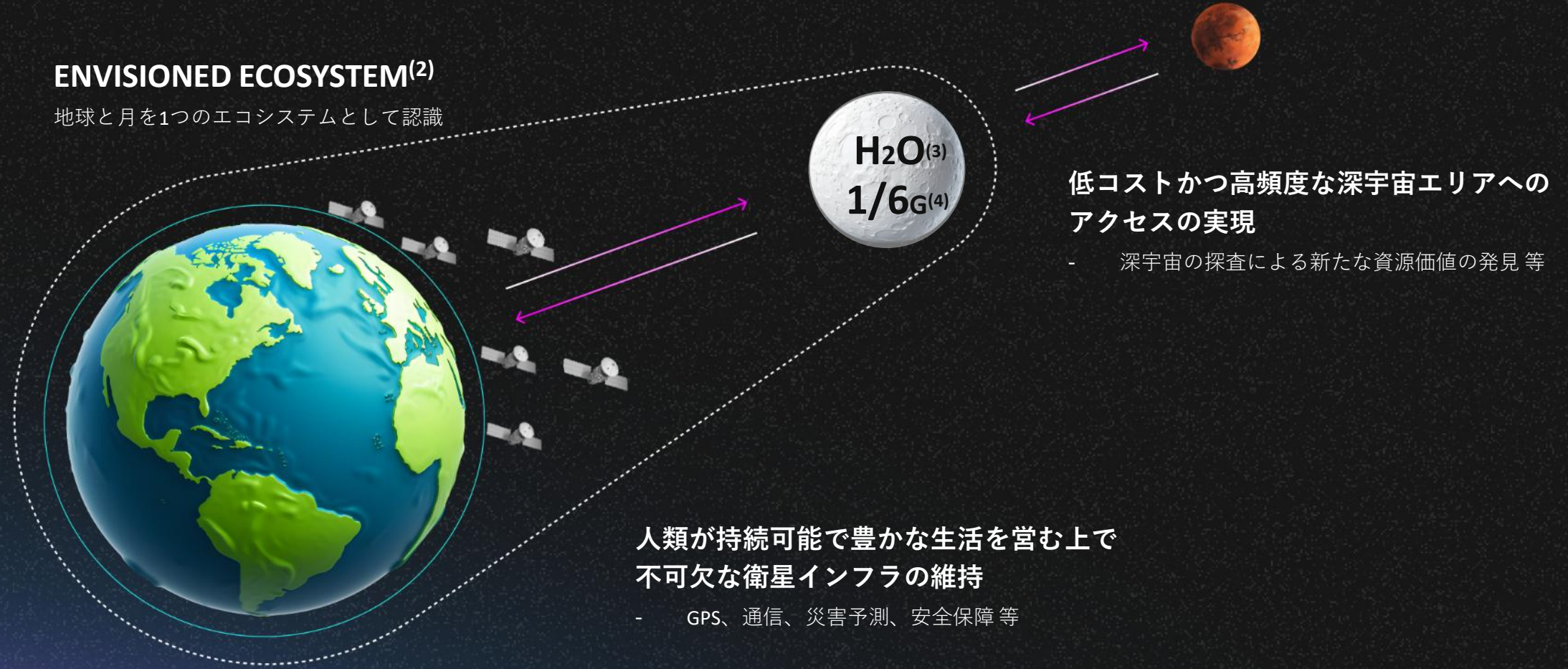
地球と月がひとつのエコシステム
となる世界を築くことにより、
月に新たな経済圏を創出する

“Moon Valley 2040” concept

月に存在する水資源を中心に、建設・製造・エネルギー・通信など
様々な業界により月面のインフラが確立され、2040年代には1,000人
が月面に居住し年間10,000人が月に訪れる世界観を構想



月面には大量の水⁽¹⁾が存在すると推定され、月を、水から生まれる燃料の「供給基地」として活用することで、地球の生活にベネフィットをもたらす可能性が検討される



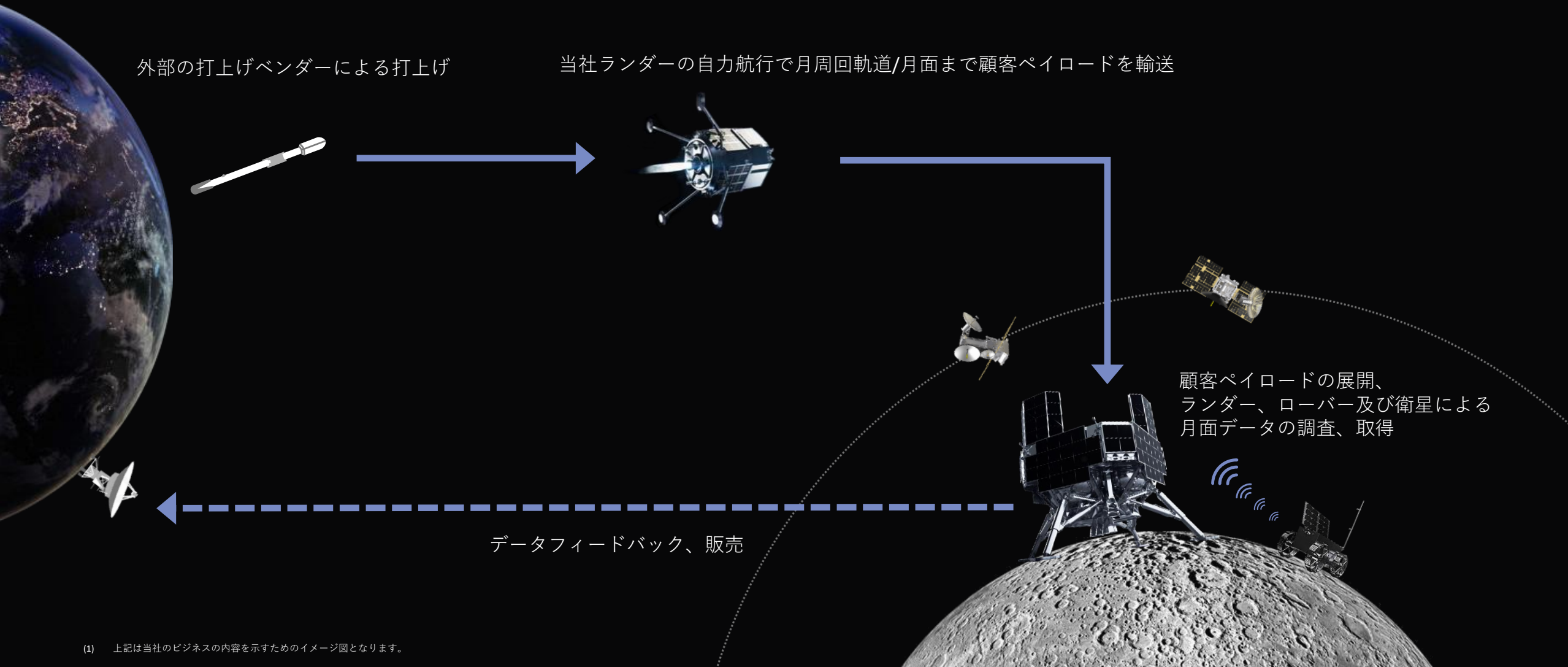
(1) <https://science.nasa.gov/moon/moon-water-and-ices/>

(2) 画像はイメージです。

(3) 注(1)に引用した研究によると、水は月面に広く分布している可能性があり、レゴリスから抽出した水を電気分解して水素と酸素を分離し、将来の深宇宙探査の燃料源として利用できる可能性があります。

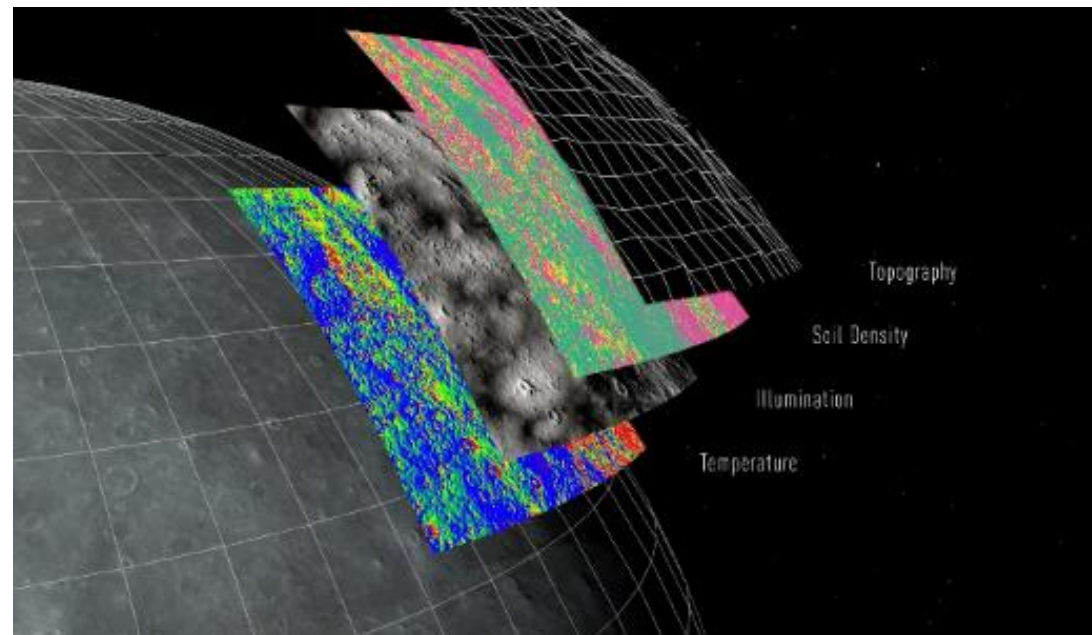
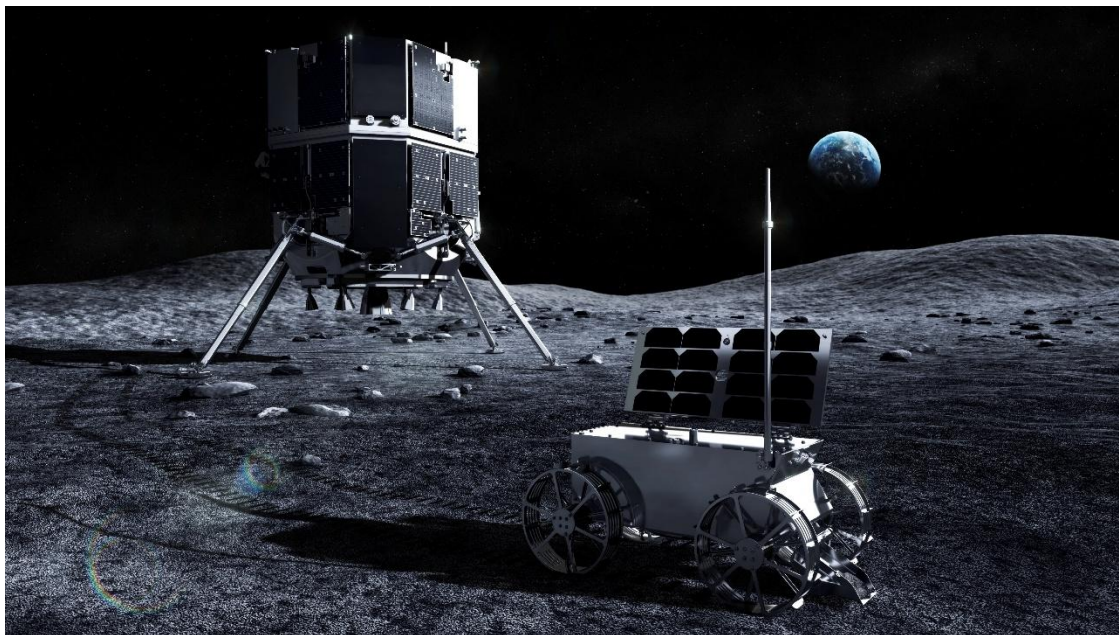
(4) 月は地球の1/6の重力しかないため、月の打上げコストは理論上、地球より低くなります。

外部の打上げベンダーを利用し、打上げたランダーは自力で月へ航行し、着陸後は顧客ペイロードの展開を行い、ランダー及びローバーによって月面データを調査、取得する



(1) 上記は当社のビジネスの内容を示すためのイメージ図となります。

ペイロードサービスがビジネスの中核。今後はデータサービスの確立による更なる成長を目指す



ペイロードサービス：当社の売上高を牽引する中核サービス

- 顧客の荷物を預かり、月周回軌道/月面まで輸送するサービス
- **想定単価 \$1.5Mn/kg⁽¹⁾**で顧客とペイロードサービス契約を締結
- 顧客は必要な実験等を実施の上、月周回軌道・月面のペイロードから必要なデータを獲得

データサービス：今後の成長ドライバー

- 当社の自社ペイロードを使って顧客は必要なデータを獲得
- 将来的には、高頻度なミッションにより蓄積されたデータベースへのアクセスを顧客に提供する計画
- 2026年3月期Q1より売上計上を開始

(1) 2025/12時点の想定。この想定単価は今後一定程度低減していくと会社は見込んでいます

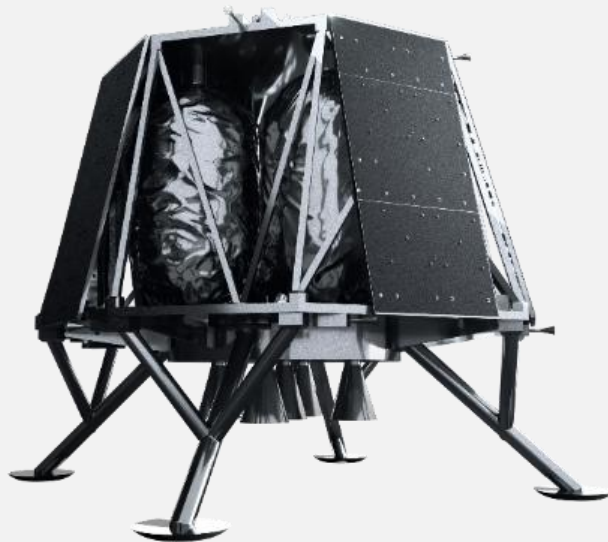
米国と日本において大型化した2機のランダーを開発中、再び月を目指す

(2027⁽¹⁾年打上げ予定)

TEAM DRAPER
COMMERCIAL MISSION 1

Mission 3

APEX 1.0



サイズ

高さ：約3.3m、幅約：約4.5m

ペイロード積載可能容量

最大300kg

ペイロード顧客

総契約金額：127億円⁽⁵⁾



官 NASA



民 Control Data Systems



官 ASI (イタリア宇宙機関)



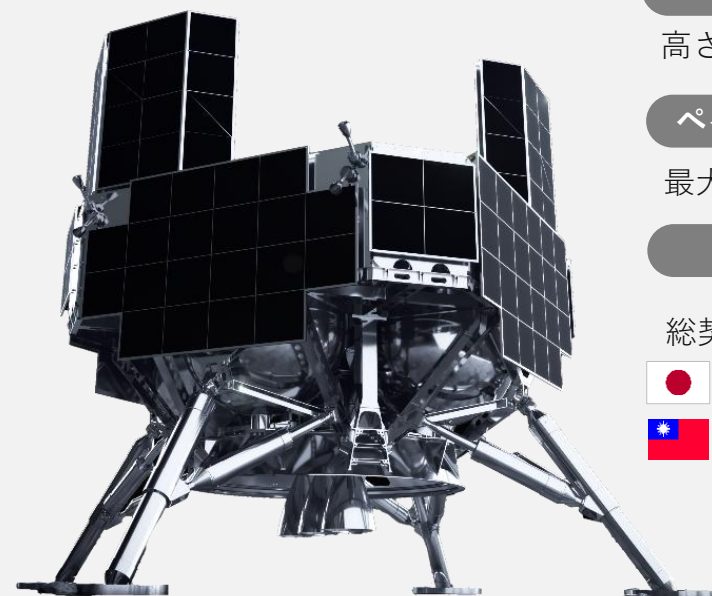
民 Magna Petra

(2028⁽¹⁾⁽²⁾年打上げ予定)

METI SBIR
Mission

Mission 4

SERIES 3 LANDER⁽³⁾



サイズ

高さ：約3.6m、幅約：約3.3m

ペイロード積載可能容量

最大数百kg

ペイロード顧客

総契約金額：58億円⁽⁵⁾



学 東京科学大学



官 TASA

(台湾国家宇宙センター)

(1) 2025/11/14現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性があります
(2) 当初2027年内として経済産業省及びSBIR事務局と合意しておりましたが、足許、2025/11/14時点では当社内の開発計画上、2028年内の打上げとなることを見込んでおります。本変更については、関係省庁及びSBIR事務局と調整中の段階であり、最終的には経済産業省の認可を受領の後、正式に計画変更が認可されることとなります

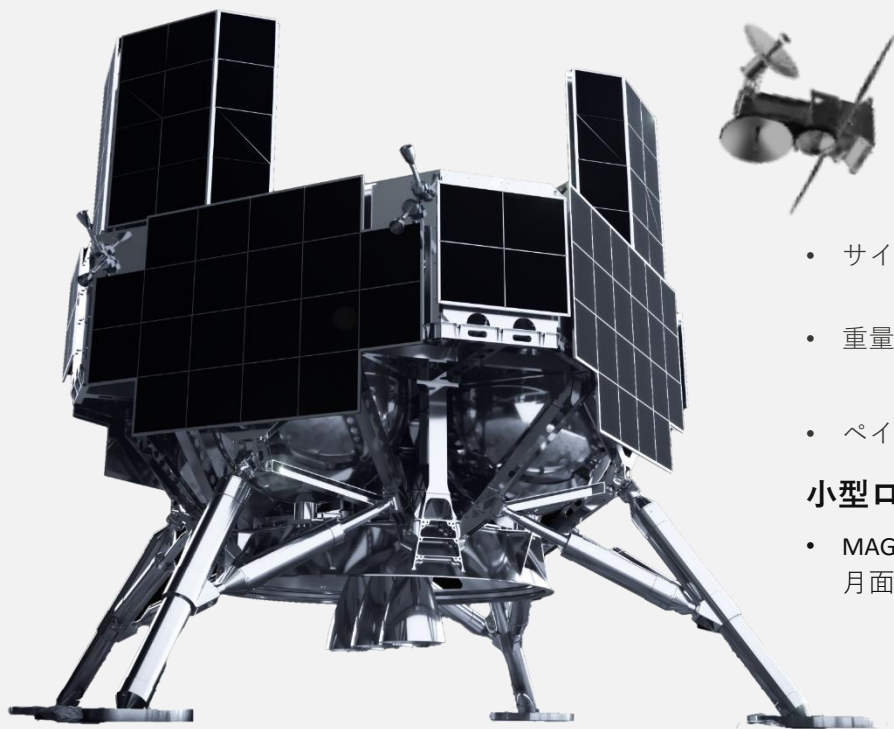
(3) 今後変更の可能性がある仮称。画像のデザインは今後変更の可能性があります
(4) 発行諸費用控除後の手取概算額。単位未満切り捨て
(5) 2025/11/14時点。2025/8末TTMを使用し円換算。数値は小数点以下切り捨て

(2029年打上げ予定⁽¹⁾)JAXA SSF2
Mission

Mission6 overview

使用するハードウェア

開発開始

SERIES 3 LANDER⁽²⁾

- サイズ：高さ約3.6m、幅約3.3m
(着陸脚を広げた状態)
- 重量：約4,000kg (Wet: 燃料装填時)
約1,000kg (Dry: 無燃料時)
- ペイロード積載可能容量：最大数百kg

小型ローバー

- MAGPIEプロジェクトにて輸送、
月面探査を実施

ミッション全体像

- 上限**200億円**⁽³⁾の宇宙戦略基金第2期に採択、開発開始
- ESA MAGPIEフェーズ2予算として**合計119億円**⁽⁴⁾を確保
- JAXA SLIMが実証したピンポイント着陸技術を活用
- 2029年に打上げ予定⁽¹⁾

ペイロード顧客

営業進行中

欧州宇宙機関より予算確保

European Space Agency (ESA) :
MAGPIE フェーズ2※総額119億円⁽⁴⁾の予算確保、うち一部は研
究開発売上、一部がペイロード売上となる見
込み

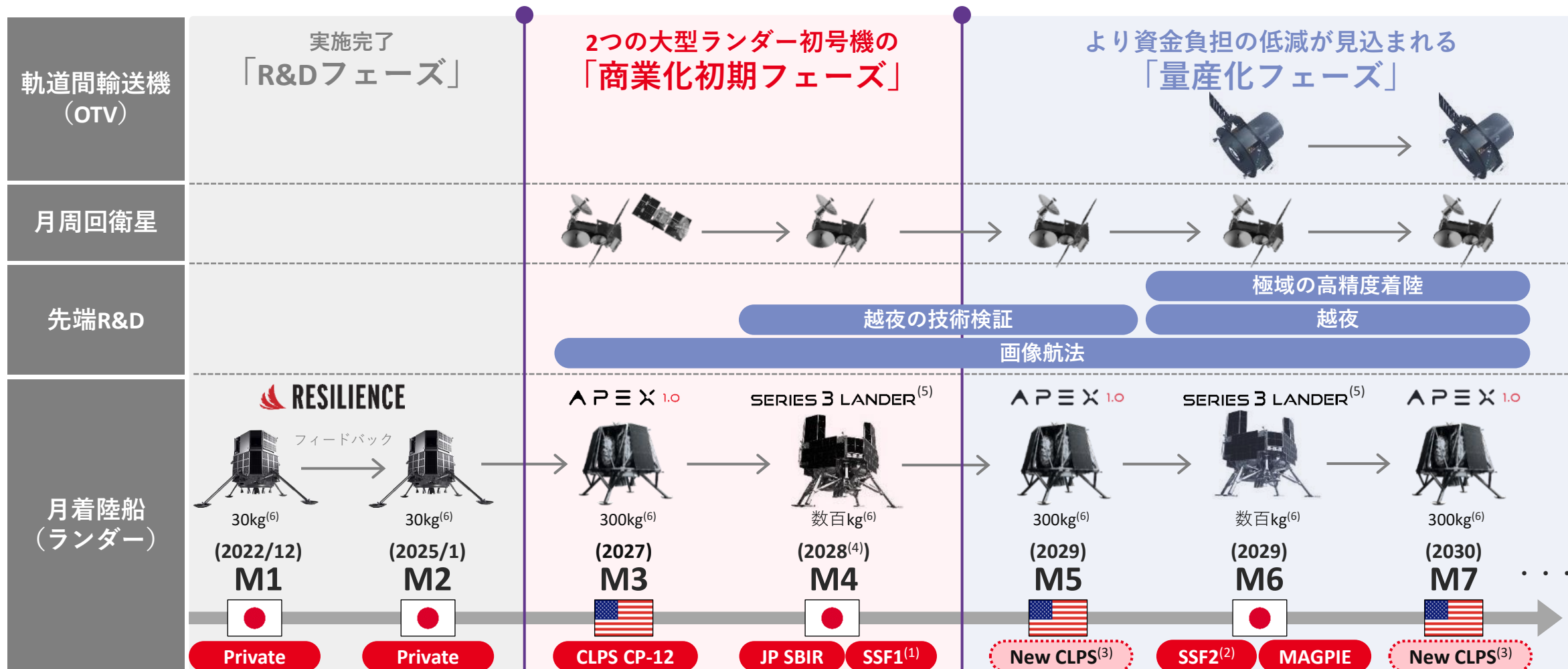
(1) 2026/2/10現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性があります。

(2) 今後変更の可能性がある仮称。画像のデザインは今後変更の可能性があります。

(3) 今後のステージゲート審査等により金額が変動する場合があります、現時点で全額を受領することを確約するものではありません。

(4) 2025/12末時点のTTMレートを使用し換算。小数点以下切り捨て。今後の契約内容等により金額が変動する場合があります、当該金額全額の契約締結を確約するものではありません。

現在は「商業化初期フェーズ」。今後の「量産化フェーズ」ではミッションの黒字拡大を目指す



※ 上記は2026/2/10現在で想定しているミッション及びスケジュールであり、今後変更となる可能性があります

- (1) JAXAによる宇宙戦略基金 (Space Strategy Fund) 第1期を指す
- (2) JAXAによる宇宙戦略基金 (Space Strategy Fund) 第2期を指す
- (3) 現時点で当社がこれらの案件への応募を決定したのではなく、また、応募済の案件についても、当社が採択される保証はありません

(4) 当初2027年内として経済産業省及びSBIR事務局と合意しておりましたが、足許、2026/2/10時点では当社内の開発計画上、2028年内の打上げと見込んでおります。本変更については、関係省庁及びSBIR事務局と調整中の段階であり、最終的には経済産業省の認可を受領の後、正式に計画変更が認可されることとなります

- (5) 2026/2/10現在の想定。今後変更の可能性がある仮称。画像のランダーデザインは今後変更の可能性があります
- (6) 最大積載可能容量

日本と海外のマネジメントチーム体制で、2030年に向けた成長を日米欧の三拠点で着実に実行



CPO
最高人事責任者
今村 健一



取締役CFO & Executive Business Director
最高財務責任者 兼 事業統括エグゼクティブ
野崎 順平



代表取締役CEO
最高経営責任者
袴田 武史



ispac U.S. CEO
Elizabeth Kryst



ispac Europe CEO
Julien Lamamy



CTO
最高技術責任者
氏家 亮

ispac



SMBC × HAKUTO-R

VENTURE MOON

2025/2/15撮影 M2 Flyby1 (©ispace)